

# アーサー・ビナードと平和を考える朗読会

——「ぼくトリ」「やまなし」「イソップ」について——

林 伸 一

## 1. はじめに

2019年以来アーサー・ビナード氏（Arthur Binard、以下ビナード氏）を招いての「山口の朗読屋さん」の朗読会は、次の表1に示すように2022年で4回目となった。

表1. 第1～4回のアーサー・ビナード氏を囲む朗読会について

年月日	会場	朗読会名	参加者	朗読作品・参照資料
①2019年 8月11日(日) 13:30 ～16:30	小郡ふれあいセンター2階 集会室	アーサー・ビナードと共に平和を考える朗読+お話し会	100名(アンケート回収61名:男性5名、女性38名、性別無記入18名)	『さがしています』『ここが家だーベンチャーの第五福竜丸』『キンコンカン戦争』『この本をかくして』 詳細は林(2020)参照
②2020年 7月20日(月) 13:30 ～16:30	山口児童館2階 集会室	アーサー・ビナードが下堅小路にやってくる!	33名(アンケート回収14名、男性1名、女性11名、性別無記入2名)	絵本『父さんがかえる日まで』紙芝居『ちっちゃいこえ』 絵本『そもそもオリンピック』 詳細は林(2021a,b)参照
③2021年 8月15日(日) 13:00 ～16:00	山口市市民会館 小ホール	アーサー・ビナードを囲む朗読+お話し会	75名(アンケート回収47名、男性9名、女性35名、性別無記入3名)	『ありえない!』『Heartbloom Hill(花さき山)』『雨ニモマケズRain Won't』『ウトウとクイナPuffin and Rail』 詳細は林(2022)参照
④2022年 9月3日(土) 13:00 ～16:00	小郡地域交流センター	アーサー・ビナードと平和を考える朗読会	55名(アンケート回収33名 詳細は後述)	『ちっちゃいこえ』『ぼくトリ』『ポチャッポチャッイソップ』『やまなしMountain Stream』

参加者からは「朗読会の長さは、2時間ぐらいが良いと思う。3時間の時は、間に昼食時間を持てば良い(男性・70代)」「はじまり時間が2時からでも良かったのでは?少し長いようにも感じる(女性・70代)」などという声もあった。ただ上記の表1に示したように、これまでのビナード氏を囲む朗読会は、3時間枠で実施されてきた。それ以外の山口の朗読屋さんの朗読会は、午後2時から4時までの2時間枠で開催されてきたために、3時間は長いと感じる方もいらっしゃると思う。しかし、多忙なビナード氏をお呼びするため、年に一度の開催で、できるだけ多くの作品を紹介して、本人にも話してほしいとの希望もあって3時間枠での実施となっている。ビナード氏は、年間3作品以上の割で作品を発表しているため、これまでの朗読会も3～4作品を紹介している。今後の朗読会も3時間枠での企画となるであろう。

## 2. 2022年9月3日の「アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」の企画

企画のリハーサルをしている段階で次のような新聞記事が飛び込んで来た。

「紙芝居、最優秀作に『ちっちゃいこえ』（2022年8月27日・朝日新聞）。その記事の内容は以下の通り。

年間に出版された紙芝居の最優秀作品に贈る第58、59回五山賞の贈呈式が先月31日、東京都内で開かれた。第58回五山賞特別賞には、アーサー・ビナードさん脚本、丸木俊（とし）さん・位里（いり）さん絵（「原爆の図」より）「ちっちゃいこえ」（童心社）、奨励賞には折原由美子さん脚本・絵、ときわひろみさん監修「どんと来い！三途の川」（雲母書房）…ビナードさんは「ペーパーレスが進められているけれど、これからも迎合せずに紙芝居を続けていく」と語った。（…途中省略）

紙芝居『ちっちゃいこえ』については、2020年の山口児童館での朗読会でも紹介したのだが、今回の第58回五山賞特別賞受賞をお祝いして、次に示すプログラムの冒頭にビナード氏本人に実演してもらうことにした。

第58回五山賞奨励賞には『どんと来い！三途の川』（雲母書房）が選ばれたことも特筆に値する。というのも山口の朗読屋さんが高齢者施設を訪問するときに、実演して好評を得ている作品だからである。公立の図書館でも高齢者用紙芝居として貸し出しているの、どしどし活用してほしい作品である。

五山賞に関しては、林（2019）が、紙芝居の再評価として第1回目から56回目までの受賞作をリストアップし、整理し検討を加えている。（注1）

表2. 9月3日「アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」のプログラム

時間	題目・内容	担当
13:00～	開会の言葉・主催挨拶 ビナード氏の紹介	林 伸一
13:10～	紙芝居『ちっちゃいこえ』	実演：ビナード氏
13:30～	『ぼくトリ』作者紹介、「習うより成れよ」	松重・隅野・内田
13:50～	コメント・解説	福田百合子・ビナード氏
14:00～	休憩・トイレの案内・ミニ展示・サイン会	ビナード氏
14:10～	『ポチャップ ポチョップ イソップ』作品朗読 作者紹介、いまはイソップ、イソップはいま	岡村・荒井・西村・田中・ 島田・内藤
14:30～	コメント・解説（ウクライナ戦争と日本）	ビナード氏
14:50～	休憩・トイレの案内・ミニ展示・サイン会	ビナード氏
15:00～	『やまなし』（英語：ビナード氏⇒日本語） 宮沢賢治紹介、「なま麦なま米なまプラトン」	金崎・荒井・岡村・島田・ 田中・西村・内藤
15:40～	コメント・解説（宮沢賢治について）	福田百合子・ビナード氏
16:00	閉会の言葉・告知	林 伸一

『ポチャッ ポチョッ イソップ』は、進行中のウクライナ戦争になぞらえて考えられるのでは、との問題意識からビナード氏の考えを聞いたかったのだが、本人から同書は自由と権力の問題の寓話であって、戦争の問題についての話ではないと一蹴されてしまった。確かにカエルの国をどこかの国が侵略したのではなく、カエルたちが神から権力者（王さま）を求めることによって、平和な生活を失うという寓話である。

プログラム中の「ミニ展示」とは、「原爆と峠三吉の詩」を中心に「原爆パネル」40枚を会場内で展示したことを表している。

### 3. 「アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」アンケート集計結果

2022年9月3日の参加者55名中33名分のアンケートを回収したので、以下に示す。その内訳は、男性4名、女性25名、性別無記入4名であった。年齢の内訳は、40代1名、50代4名、60代10名、70代13名、80代4名、無記入1名であった。60代と70代を合わせると23名で、アンケート回答者の7割を占めている。

以下に項目ごとのアンケート集計結果を示す。多数を占める項目は、太字で示し、回答者数は、○内に示す。


表3. 9月3日の朗読会・選択式アンケート項目の集計結果

1. この朗読+お話し会をどのようにお知りになりましたか？ 葉書・チラシ⑫ 知人・友人③ 前回の朗読会⑫ 新聞① その他⑥
2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？(複数回答可) ほくとり⑬ ポチャッ ポチョッ イソップ⑯ やまなし⑬ 紙芝居「ちっちゃいこえ」⑭ 福田百合子先生の解説⑯ ビナード氏の話⑳ その他：①ウクライナの話
3. 今回の朗読+お話し会の「朗読」について、どう思いますか？ とても良かった㉔ 良かった⑧ どちらとも言えない① 改善の余地あり①
4. 今回の朗読+お話し会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？ とても良かった㉔ 良かった⑦ どちらとも言えない① 改善の余地あり① 無記入②
5. 今回の「アーサー・ビナードの紙芝居の実演とお話」について、どう思いますか？ とても良かった㉔ 良かった⑤ どちらとも言えない① 改善の余地あり① 無記入④

次に「今回の催しに関して、ご意見・ご感想をご自由にお書きください」という自


由記述の部分を内容の項目ごとに分けて示す。自由記述無記入者は、9名であった。

表4. 紙芝居についての自由記述

	<p>*アーサーさんの紙芝居、とても良かったです。 (女性・70代)</p>
<p>&lt;紙芝居を実演するビナード氏&gt;</p>	<p>*今日の開催場所を間違えて行ってしまったので、開始時間に間に合わず、アーサー・ビナードさんの紙芝居実演が観られなかったのが残念だった。 (女性・60代)</p>
<p>*紙芝居を是非聞きたいと思ったため、場所を吉敷の方へ行ってしまう、当会場に着いたら、紙芝居は終わっていました。残念でたまりません！ (女性・70代)</p>	

上記のお二人は、事前の公開リハーサル（吉敷）と本番の会場（小郡）を取り違えて、紙芝居に間に合わなかったようだ。逆に、告知のはがきには「12時半開場、1時開演」としていたのに、午前中のリハーサル中の11時くらいに来場した方も二人いた。

表5. アーサー・ビナードの話についての自由記述

	<p>*アーサーさんの話がとても面白く、もっともっと聞きたいよ～。 詩はフカーいものと詩人の友人から聞いておりました。絵本の詩は、大人の詩のように複雑ではなく、詩の奥が少し見えてきたような気がします。私の作る詩と思しきものは、言葉の羅列に過ぎないことがよくわかり、恐ろしくなりました。というような言葉をはけない、恐ろしい。(女性・80代)</p>
<p>*作品を通してアーサーさんの解説、ご自身の作品に対しての思い、とらえ方を聞かせていただき、素晴らしかった。哲学的な視点から多くのことを教えていただき、素晴らしい時間でした。作者に来ていただいて、感動です。(性別無記入・70代)</p>	
<p>*アーサーさんの話にだんだん吸い込まれました。平和の大切さを改めて深く感じ入りました。そして個人の確立を人間生涯の課題と思いました。(女性・80代)</p>	
<p>*アーサーさんの話は、おもしろかったが、真偽のほどは疑問。歴史が悪意のみで回されるとは思えない。(女性・70代)</p>	
<p>*アーサーさんののろけ話も、おもしろかった！(女性・70代)</p>	
<p>*アーサー・ビナードさんは、アメリカ人？日本人？いや地球人、いや宇宙人かな。とても楽しくて楽しくて…。また、いろいろな絵本をよんでみたいと思います。</p>	

またお話、聞きたいです。(女性・60代)

\*アーサー・ビナードさんをお招きしての朗読会、素晴らしかった。ストーリーの内容の真実を作者本人から知る事が出来て、目からウロコでした。すばらしいアーサーさんのお話は、ちがう世界に入り込ませて頂き、感動!!(女性・60代)

上記の「絵本の詩は、大人の詩のように複雑ではなく、詩の奥が少し見えてきたような気がします」との記述があるが、当朗読会の「ぼくトリ」「やまなし」「イソップ」については、詩集ではなく物語なので、文章も韻文ではなく散文で書かれている。

もちろん『やまなし』の作者の宮澤賢治は、詩人であり『雨ニモマケズ』は一つの詩が一冊の絵本になっており、山村浩二・絵／アーサー・ビナード英訳の対訳式で今人舎から刊行されている。『やまなし』の中の「クラムボンはわらっていたよ。」「クラムボンはかぶかぶわらったよ。」と続く蟹の兄弟の対話は、クラムボンの繰り返しがりフレインのようで、詩のような韻律を持っている。それはそのまま詩の世界となっていると言ってもいいかもしれないが、あくまで物語中のセリフである。

### 3-1. 『ぼくトリ』について



2022年2月11日に、スペインの作家イングリ・シャベールの絵本『ぼくトリ』の日本版が千倉書房より発行された。同書は、世界14カ国で翻訳されており、初々しい恋の物語を描いた絵本。同書は、子どもも楽しめる初恋の物語であるが、大人にとっても恋愛の本質に迫る、究極のラブ・ストーリーでもある。原書は、スペイン語で書かれ、フランス語や英語でも翻訳されているが、左から右への横書きの文章の流れとは逆方向にトリは、左方向(逆勝手)を向いている。

逆勝手とは、茶室によってお点前する亭主の左にお客様が来ることを言う。お客様が左に来るから、当然亭主も左手を使う変則的なお点前になる。「逆勝手」「左勝手」など茶道の用語であるが、それを横書き文化に援用すると左から右への文字の流れに逆らって『ぼくトリ』の鳥は、左方向(逆勝手)を向いていることになる。そのまま何もしないでいたら、「かたおもい」で終わってしまうかもしれない流れに逆らって主人公の少年は、着ぐるみをかぶり左方向(逆勝手)を向いて進む。同書の11~12頁に「かたおもい」の相手のナンシーが夢中になっている鳥の絵が描かれているが、止まっている鳥は別として、飛んでいる鳥は左から右方向(順勝手・正勝手)へ飛んでいる。

ハッピーエンドの『ぼくトリ』のラストシーンでも鳥がたくさん右方向へと飛んでいく。着ぐるみからも数羽の鳥が右方向へと飛んでいく。

表6. 『ぼくトリ』についての自由記述

- \* アーサーさんの話（ぼくトリ）は、とても素敵でした。（女性・60代）
- \* 『ぼくトリ』：雨ですぶぬれシーンの読みが、特に良かったです。アーサーさんのタイトル作りの話がおもしろかったです。（女性・50代）
- \* 『ぼくトリ』について、ビナードさんの解説少し哲学的で、福田先生が言われたように少し分かりにくかった。（女性・80代）
- \* 『ぼくトリ』もアーサーさんのお人柄が手に取るようにわかり、つい笑顔になってました。（女性・60代）

「タイトル作りの話がおもしろかったです。（女性・50代）」との声があったが、『ぼくトリ』のスペイン語版の原題は〈El día en que me convertí en pájaro〉で、「ぼくが自分自身をトリに化けさせた日」というような長いタイトルであった。英語版のタイトルは「ぼくがトリになった記念日」というような感じで、日本語版は「ぼくがトリになったわけ」「ぼくはトリなんだ」などビナード氏は、いろいろと考えたとのこと。ビナード氏本人は、詩人なので言葉をどんどん削っていくと『ぼく（半角あけて）トリ』と考えたが、編集者との話で、半角もあけずに『ぼくトリ』で行こうということになったそうだ。それでも、読む側は「ぼく」「トリ」と二語で発音するのか、あたかも「ぼくトリ」という種類の鳥がいるかのように一語で発音するのか迷うところだが、ビナード氏は後者でよいとのこと。

さらに、いわばトリオタクのナンシーに合わせて、「とり」「鳥」ではなく、専門的学術用語のように「トリ」とカタカナ化したと考えるとなお面白い。

### 3-2. 『ポチャッ ポチョッ イソップ』について



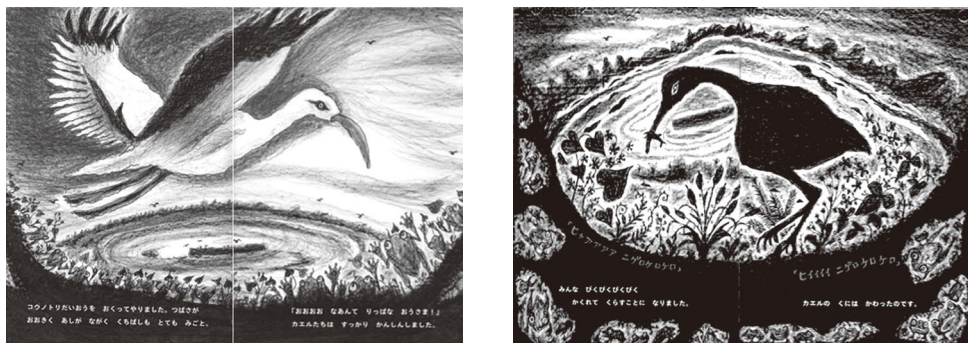
自由で平和なカエルのくにで、平和な日常に飽き足りないカエルたちは「平和ボケ問題を考える会」を立ち上げた。カエルたちは、「つよいおうさまをください」と天の神にお願いした。

そこで与えられたのは、急ごしらえの丸太大王。何もしない丸太では王様にはならないとカエルたちは考えて、もう一度、神様をお願いした。二度目に現れたのは、コウノトリ。コウノトリと言えば、「赤ちゃんを運ぶ」鳥というイメージが中世ドイツやノ

ルウエーで確立されたものだと考えられている。それは、当時、夫婦の婚姻は夏至の間に行うことが一般的で、夏に妊娠して翌春に出産するという事例が、渡り鳥のコウノトリが春に戻ってくることと重なって、「コウノトリが赤ちゃんを運んできた」というイメージが定着したと言われている。（「コウノトリが赤ちゃんを運んでくる」というイメージはどこから来たのか？ - GIGAZINE参照）

ところが、そのコウノトリが、カエルを次々に食べてしまうのである。与えられた「自由」へのアンチテーゼを、イソップの話で描いた絵本になっている。イソップの再話という形で、現代の世相を皮肉たっぷりに描いているとも言えるだろう。

「ニュースダイジェスト」によると、日本では観客席から見て舞台の右側を「上手（かみて）」、左側を「下手（しもて）」と言いますが、創生期の舞台は日が当たるよう南向きに作られ、日が昇る東側を上位と考えて上手、西側を下手、と呼びました。登場人物の上手から下手への移動が順勝手とされ、主人公が順勝手に移動すれば前進、逆勝手なら帰還。予期せぬ事象は逆勝手から発生します。〈Newsdigest (newsdigest-group.com) より〉



左の絵は色鮮やかで、つばさが大きく足が長くくちばしもとても見事なコウノトリが横書きの流れに沿って左から右に順勝手に飛んでいる。ところが、右の絵は、池に舞い降りたコウノトリが、次々にカエルを食べ始めた。その向きは、逆勝手に左方向を向いてカエルをくわえている姿が描かれている。全体的に影絵のように色をなくしたような印象で描かれている。戦争で、爆撃された都市が、まるで色をなくしたかのように見えるのを連想させる絵である。

まさに、カエルを食べるコウノトリは、カエルにとって「予期せぬ事象」となり、横書きの流れの中で、逆勝手に描かれている。

では、そのほかの「イソップ物語」では、どのように描かれているであろうか。

次の表7に「イソップ物語」を比較したものを示す。「王」や「神」の扱い、オノマトペの有無、教訓の有無などについて着目したい。

表7. 「イソップ物語」(王様を欲しがる蛙)の比較

出版年 出版社	訳者・再話者・ 画家	タイトル	王1	王2	オノマトペ 教訓など	神の扱い その他
2022年 玉川大学出版部	アーサー・ビナー ド(再話) スズキコージ (絵)	かえるのくになに つたわるおはなし ポチャップ チョッイソップ	マルタだい おう	コウノトリ	ケロケロケ ロク、バサバ サバパッと、 ドッポーン	神の姿 平和ボケ 32頁(カラー) 横書き
2018年 平凡社	安野光雅(絵・文)	方言でたのし むイソップ物 語 (注1)	親分1 柱	親分2 鶴	なし 下心：教訓 (注2)	天 2頁 縦書き 鶴とカエルの 挿絵
2016年 ポプラ社	内田麟太郎(文)・ 高島純(絵)	イソップ物語 (王さまをほし がるカエル)	丸太んぼう	大蛇 (ダイジャ)	ぷかーん、け ろける、ろろ ろ、おーん、 ぼちゃーん	10頁 縦書き (注3)
2014年 風媒社	川名澄(文)・アー サー・ラッカム (絵)	新編イソップ 寓話(王さま を欲しがる蛙)	丸太	コウノトリ	ちょこんと	ゼウス 見開き 2頁 縦書き
2009年 講談社(名 作を1冊で 楽しむ)	村上勉(再話・絵)	イソップ絵本 館(王さまを ほしがったか える)	棒きれ	大きなへび	どぼーん、ぶ かぶか、	神さま 4頁 縦書き
2007年 チャイルド 本社	よこたきよし (文)・武井淑子 (絵)	読み聞かせイ ソップ50選 (王さまをほし がったかえる)	木の枝	大きなへび	なし (教訓・注4)	ゼウス 見開き 2頁 縦書き
1999年 岩波書店 (岩波文庫)	中務哲郎(訳)	イソップ寓話 集(王様を欲 しがる蛙)	木ぎれ	水蛇	ドブン	ゼウス 1頁 絵なし 縦書き
1962年 講談社	呉茂一(訳)	イソップ物語 (王さまをほし がったかえる)	一本の材木	水蛇(ヒド ラ：怪物)	なし (教訓・注5)	ゼウス 1頁 縦書き
1955年 岩波書店	河野与一(編訳)	イソップのお 話(王さまを ほしがっている カエル)	木ぎれ	大蛇	なし (教訓・注6)	ゼウス 文・2頁 絵なし 縦書き

(注1)「イソポ、アテナスの人々に述べたる譬えの事」と題名が付いている。他の本が「王」としているところを「親分」としている。

(注2)「下心」として次のような教訓が付記されている。「親と総理大臣とどちらが大切か考えてみるといい。親分というのは国の中に国をつくることだ。それは国全体から見ればいいことにはならない」。

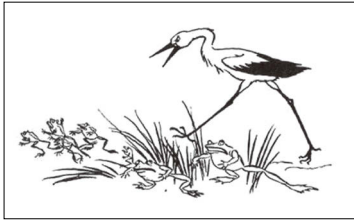
(注3)本文は「カエルは、なんでもかんでも、すぐにとり…かえるのでカエルといいます」で始まり、「しあわせなむかしには、かえるにもかえれない」という蛇に呑み込まれたカエルの悔しいつぶやきで終わっている。

(注4)教訓：よくわかりもせず、必要のないものを欲しがるものではありません。それを手に入れたために、何もかもうしなうことさえあります。

(注5)教訓：なまけものでも悪いことをしない支配者のほうが、いろんな悪さをしてかきまわすものよりはしました。(『少年少女世界文学全集・古代中世編(1)』に収録)



(注6) 教訓：ぐずでも悪くない王さまのほうが、何もかもひっくりかえすひどい王さまよりも、ま  
だまします。(『岩波少年文庫』020に収録)



風媒社(2014)の挿絵は、コウノトリが逃げるカエルを追いかけ、捕まえて食べようとしている場  
面が描かれている。日本語訳の縦書きの流れでは、コ  
ウノトリもカエルも右から左への順勝手の方向への  
移動であるが、原文が左から右への横書きであつた

とすると、逆勝手となる。

イギリスの挿絵画家アーサー・ラッカム (Arthur Rackham, 1867-1939) の絵である。  
風媒社(2014)の絵本は、ラッカム氏の没後に刊行されており、英語の原書に描かれ  
た挿絵をそのままの向きで使用したと考えられる。そうだとするとアーサー・ビナ  
ードの絵本同様に、カエルを食べるコウノトリは、カエルにとって「予期せぬ事象」と  
なり、横書きの流れの中で、逆勝手に描かれていることになる。

ちなみに英語・日本語の対訳式の『イソップ物語』は「研究社英文訳注叢書  
Aesop's Fables」として研究社から1929年に発行されている。フリー百科事典『ウイ  
キペディア (Wikipedia)』によると日本では、1593年(文禄2年)に『エソポのハブ  
ラス (ESOPO NO FABVLAS)』として紹介されたのが始まりで、これはイエズス会の  
宣教師がラテン語から翻訳したものと考えられており、天草にあったコレジオ(イエ  
ズス会の学校)で印刷されたローマ字のものである。非常に古くに日本に取り入れられ  
た西洋の書物といえる。その後江戸時代初期から『伊曾保物語』として各種出版さ  
れ、普及し、その過程で「兎と亀」などのように日本の昔話へと変化するものもあら  
われた。(「イソップ寓話 - Wikipedia」より)

表8. 『ポチャッ ポチョッ イソップ』についての自由記述



\* 『ポチャッポチョッイソップ』：グループ全員の  
個性が光るパフォーマンスで、大変楽しかった。  
(女性・50代)

\* イソップ物語の解説少し難しかったかな？ビナ  
ードさんの話は、もう少しわかりやすく、短くはど  
うですか？(女性・80代)

\* イソップの話が2500年前というのは、初めて知った。ロシア・ウクライナ戦争の  
話は、同感だった。(男性・50代)

\* かえるのくにおはなしを元にした平和論議、難しかったけれど、考えさせられ

る内容でした。(女性・70代)

\*今日は脳の活性になりましたが、難しかったです。哲学が高度すぎました。(女性・70代)

\*哲学的な深いお話に感銘しました。(女性・70代)

ビナード氏によると『世界のむかしばなし カエルのくにつたわるおはなし ポチャッ ポチョッ イソップ』というタイトルは、玉川大学出版部が「せかいのおはなしシリーズ」の一つとして同書を刊行したためである。「インドにつたわるおはなし」「オーストラリア アボリジナルのおはなし」というように国別に出された絵本の一つで、イソップの話を特定の国に限定するわけにはいかないことから苦肉の策として「カエルのくにつたわるおはなし」としたそうである。

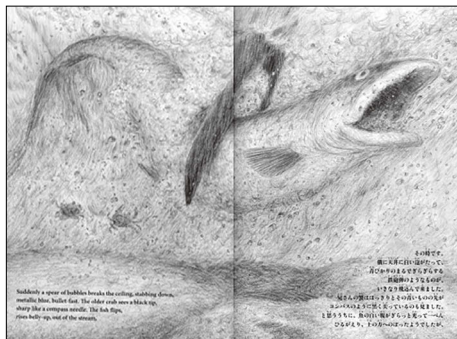
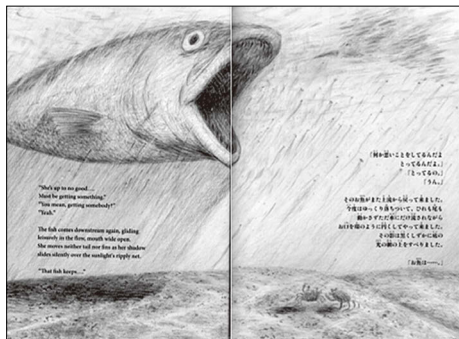
ちなみに本書のほかに、アーサー・ビナード著・スズキコージ画のコンビ作品としては、『そもそもオリンピック』(2020)や日本絵本賞を受賞した『ドームがたり』(2017)があり、ともに玉川大学出版部が刊行している。(詳細は、林2021a参照)

### 3-3. 『やまなし』について

「クラムボン」とは何だろう？ 宮沢賢治が1923年4月8日付の岩手毎日新聞に発表した童話「やまなし」(新聞発表から100年)に関しては、2匹の子ガニが口にする謎の言葉を巡り、これまでさまざまな解釈が出されてきた。ビナード氏も、同作を翻訳するうえで「クラムボン」をどう訳すか長らく悩み、思考を重ねたという。2022年4月に刊行されたバイリンガル絵本『やまなし Mountain Stream』(今人舎)は、世界的に活躍しているアニメーション作家・山村浩二さんとの8年間にわたるコラボレーションの成果だ。ビナード氏は、宮沢賢治「やまなし」の奥にはプラトンの哲学があると主張している。

「無限に広がる外の世界からは、たまに強烈な現実が水面を割って突っ込んでくる。それを不思議がり、怖がり、追いかけてたりして語り合い、考えて共有する」とビナード氏は、あとがきの「なま麦なま米なまプラトン」の中で書いている。

英語の「蟹」のcrabと「母」の「ボ」を合わせて「クラブボ」となり、「クラムボン」となったなど諸説ある。ビナード氏は、crabの「クラブ」とPlatoの「プラトン」を合体させたのが、「クラムボン」の本当の出所かもしれないとまで考えている。



『やまなし Mountain Stream』の中の魚は、「ひれも尾も動かさずにただ水にだけ流されながら」（横書きの文章）の流れに沿って左から右へやって来た。右上には、青っぽい影のようなものが水面に写し出される。それが次の場面では、「青びかりのまるでぎらぎらする鉄砲弾のようなものが、いきなり飛込んできました」。魚にとっては、「予期せぬ事態」となり、横書きの流れの中で、逆勝手に描かれた鳥に持っていかれることになる。蟹の父さんからは、それが「かわせみ」だと二疋の蟹は告げられる。

カワセミ（翡翠、魚狗、川蟬、学名：Alcedo atthis）はブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属に属する鳥で水辺に生息する。鮮やかな水色の体と長くちばしが特徴でヒスイ、青い宝石、古くはソニドリと呼ばれることもある。（カワセミ・フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』参照）

鮮やかな水色の体から「青い宝石」とも呼ばれることから「かわせみ」は、人間からはプラス・イメージの鳥であるが、川の中ではハンターとして魚を捕食するわけで、見ていた蟹を声も出ないくらいに怖がらせ、ぶるぶる震えさせることとなる。

偶然かもしれないが、『ほくトリ』『ポチャッ ポチョイソップ』『やまなし』のそれぞれのトリが逆勝手から登場している点が共通しており、三作品とも逆勝手の場面から、予期せぬ展開が待っていることとなる。

表9. 宮沢賢治『やまなし』の魚と鳥の場面

出版年・出版社	絵の作家	魚の向き	鳥の向き	縦・横	総頁(該当頁)
2022 今人舎	山村浩二	右向き	左向き	横書き	44 (18~21)
2013 好学社	小林敏也	右向き	上から下	縦書き	42 (14~17)
2006 三木商行	川上和生	左向き	上から下	縦書き	40 (14~17)
2004 岩崎書店	川村みづえ	左向き	右上から下	縦書き	38 (16-19)
1987 偕成社	遠山繁年	右向き	右上から下	縦書き	37 (12~15)

2022（今人舎）のみが、英文と日本語文を並記する形で横書きとなっているが、そのほかは縦書きとなっている。横書きでは、左から右向きの魚が順勝手となるが、縦書きの2013（好学社）も1987（偕成社）も右向きとなっている。2022（今人舎）のみが、鳥が左向きで登場し、魚と対向する関係となっているが、そのほかは上から下で、右向きと左向きの概念枠を超えた上から下向きとなっており、魚にとっては、「予期せぬ事態」を表現している。まさに、魚にとっては「想定外」の位置からの攻撃となっている。川の流れの中だけの小宇宙（小さな世界）の中だけで生活している蟹や魚にとって、生活枠を超えたところからの「想定外」の侵入者は、自分たちにとっては「ありえない」事態をもたらす「声も出ずいすくまって」「ぶるぶるふるえて」しまうこととなる。

表10. 『やまなし』についての自由記述

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>* 『やまなし』：音響確認をお願いします。前半が残念でした。（女性・50代）</li><li>* 『やまなし』の朗読は、会の人々の声が小さく聞こえにくかった。アーサーさんの朗読はよかった。『やまなし』の解説は、おもしろかった（プラトンの話）（女性・70代）</li><li>* 『やまなし』のアーサーさんの英文、朗読屋さんの朗読もとても良かった。アーサーさんの話は、少し長かったかな？（女性・70代）</li></ul> |
|--|

「やまなし」の解説は、おもしろかった（プラトンの話）とあるのは、「どことなく古代ギリシャのプラトンの『洞窟の比喩』に通じる」とビナード氏があとがきの「なままなまプラトン」に書いている点である。

文学者は、この作品を「童話」と捉えるが、ビナード氏は「哲学寓話」だと確信しているとのこと。「人間というものは、自分が現実に触れていると思い込んでしまっているが、どいつもこいつも本当は洞窟の奥にいて、つながれた状態で存在している。しかもどん詰まりの壁の方をひたすら向いていて、外の現実は少しも見えず、入り口から差ししてくるわずかな明かりと、ちらちらする影の動きだけをぼんやり眺めているに過ぎない。てっきりそれが現実だと勘違いしながら」。

『やまなし』が、幻燈にはじまり、「私の幻燈はこれでおしまいであります」で終わっていること自体が、「洞窟の奥にいて、つながれた状態」であることを示しているのではないだろうか。限られた情報だけに接して「どん詰まりの壁の方をひたすら向いていて、外の現実は少しも見えず」閉塞状態に陥っているのが現実ではないかと思われる。ウクライナ戦争などもテレビからの情報だけで「外の現実」が見えたつも

りになっているが、どこかで情報操作されているのかもしれない。

表11. アーサー・ビナード氏と福田百合子先生のやりとりについての自由記述

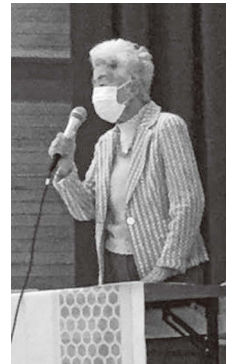
\*アーサーさんと福田先生の解説、お話も宝物のようでした。

(女性・50代)

\*福田先生のおやかな話し方、アーサーさんのますらおぶ  
りな話し方がとても心地よく織りなされて、良かったです。

(女性・40代)

\*アーサー・ビナードさんのお話は、今回で2回目ですが、今  
日はとても良く理解しやすいお話でした。その上、福田先  
生がもっと解りやすくお話されたと思います。(女性・70代)



\*アーサーさん、福田百合子先生、お二人のライブならでこそのお話、現代の社会  
をどのように見るか、視点をおおいに学びました。混沌とした今の日本や世界の  
中で自分がどのように生きていけばよいか大きな支えになります。(男性・60歳)

\*とてもとても高度な朗読会でした。アーサーさん、福田先生を中心に広がる会話、  
朗読にとりあげられた絵本が、深く深く読み取られ…すごかったです。(戦争の  
ことも)(シュールでナンセンスで…)(意味が定まっていない言葉、それがまた、  
意味をもつ、とか…)絵本もたくさん買って英語も日本語もイソップの童話も、  
自宅で声を出して読み、振り返ってみたいと思います。(今回の「朗読」は少し  
抑揚があるといい場面もあったかと…)(性別無記入・70代)

\*福田先生とアーサーさんのやりとりもおもしろく、素敵でした。(女性・70代)

表12. 朗読・企画・提案・要望などについての自由記述

\*福田先生の位置が右に寄りすぎていて、会場右側の人からは、見えにくかった。

(男性・70代)

\*前回ギターがあり、今回はなかったので、音楽とのコラボがあると、またより楽  
しいと思いました。(女性・40代)

\*福田先生のお話とても分かりやすく、良かったですと思います。(性別無記入・80代)

\*毎年、楽しい企画をありがとうございます。アーサーさんの解説、福田先生のユー  
モラスな解説、皆さんの朗読のどれも豊かな時間でした。(女性・60代)

\*楽しかったです。アーサーさんのお話が少し長いのではないのでしょうか。福田先  
生のお話が少なすぎるのでは？もう少し聞きたいです。(女性・70代)

\*平和を考える朗読会とてもよかったです。自分の内(細胞かな)に問いかけるよ

うないっぱいの響きを感じ、元気がいっぱいもらえました。ありがとうございます。  
す。中也と賢治のお話をききたいです。(女性・60代)

\*朗読する人は、舞台上上がった方がいいのでは？ マイクの使い方をもう少し工夫されるといいと思います。30日の火曜日と比べると格段とお上手なられていてびっくりしました。たくさん練習をされているのですね。すごいです!!ありがとうございます。(女性・年代無記入)



上記の「アーサーさんのお話が少し長いのではないのでしょうか。福田先生のお話が少なすぎるのでは？もう少し聞きたいです。(女性・70代)」との声があったのは、ビナード氏の話が福田先生の解説時間に食い込んでしまい、福田先生の話が短くなってしまったことによる。確かにメインゲストは、ビナード氏であったが、予定時間を超えて話し続けるのはのは、マナー違反であるし、プログラム構成上も好ましくない状態である。「アーサーさんの話がとても面白く、もっともっと聞きたいよ〜。」という声があった一方で「ビナードさんの話は、もう少しわかりやすく、短くはどうですか？」という声もあり、ビナード氏には「わかりやすく、短く」話す工夫をしてほしい。

#### 4. まとめと今後の課題

以上、2022年9月3日の「アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」について振り返り、良かった点と問題点をアンケート結果を基に検討を加えた。「朗読」「福田先生のお話」「ビナード氏の紙芝居とお話」ともにアンケート回答者の72.7%が、「とても良かった」と評定してくれたことから、企画と運営はおおむね好評であったと言えるだろう。まだ、告知の仕方や当日のマイク等音響機器の使い方などには改善の余地があるだろう。「平和を考える朗読会」というテーマ設定は、進行中のウクライナ戦争を意識したものであったが、それに納得のいく内容がともなっていたかどうかは、検討の余地が残るだろう。「かえるのくにおはなしを元にした平和論議、難しかったけれど、考えさせられる内容でした。(女性・70代)」との声があったように、平和に向けた議論を今後も朗読活動を媒介に続けていく必要があるだろう。

本報告では、絵本の中の鳥の向きを横書き・縦書きとの関係から、逆勝手・順勝手という見方に基づいて検討を加えたが、まだ例示と考察が十分とは言えない。今後も別の絵本や紙芝居を素材に、横書き・縦書きと逆勝手・順勝手の関係を検討したい。

ビナード氏は、9月3日の朗読会以降も、次のような本を発表している。

『なんなんなん?』（マック・バーネット著／アーサー・ビナード訳／小学館）

『ハナミズキ A Hundred Years』（一青窈作／アーサー・ビナード訳／今人舎）

林（2020）は、ビナード氏の著作物をリストアップしてきたが、詩集・翻訳書・単著・共著を含めて2022年時点で80点を超えた。ネット上には、すでに<アーサー・ビナード おすすめランキング (80作品) - ブクログ (booklog.jp)>が発表されている。「山口の朗読屋さん」としては、ランキングに拘りなく、紹介してゆきたい。

「山口の朗読屋さん」としては、2023年8月11日（山の日）にもぜひ、上記二冊の新作をはじめビナード氏の作品を紹介し、内容を味わい、検討する朗読会を開催したいと考えている。

（注1）第57回（2018年度）の五山賞は、『ころんこつつんこ』（こがようこ脚本／和歌山静子絵）が受賞。同賞絵画賞に『とりのおうさま』（やえがしなおこ脚本／日紫喜洋子絵）、同賞特別賞に『かまた先生のアリとキリギリス』（鎌田實脚本／スズキコージ絵）の三作品（童心社）が受賞した。『かまた先生のアリとキリギリス』は、イソップの寓話を共生時代にふさわしい寛容と愛と希望の物語のあふれるメッセージで意義ある作品となっていること、また大胆かつ繊細な描写で既成概念を超えた絵画表現であることが評価されたとのこと。同作品は、文部科学省選定にもなっている。

## 【参考文献】

林 伸一（2019）「紙芝居と絵本の再評価—『街の朗読屋さん』の視点から—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第69巻、pp.21-35

林 伸一（2020）「アーサー・ビナードについての研究—絵本の朗読と図書館の役割を考える—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第70巻、pp.49-69

林 伸一（2021a）「アーサー・ビナードと谷本清平和賞—絵本と紙芝居の果たす役割を考える—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第71巻、pp.57-74

林 伸一（2021b）「アーサー・ビナードの翻訳絵本—『父さんがかえる日まで』論—」山口大学人文学部異文化交流研究施設発行『異文化研究』第15号、pp.12-31

林 伸一（2022）「アーサー・ビナードを囲む朗読+お話し会—コロナ禍の開催と

図書館の運営について」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第72巻、  
pp.51-74

### 【引用文献・絵本等】

アーサー・ビナード構成／丸木俊・丸木位里絵／紙芝居（2019）『ちっちゃいこえ』  
童心社

アーサー・ビナード著・スズキコージ画（2017）『ドームがたり』玉川大学出版部

アーサー・ビナード著・スズキコージ画（2020）『そもそもオリンピック』玉川大学  
出版部

アーサー・ビナード著・スズキコージ画（2022）『世界のむかしばなし カエルのく  
ににつたわるおはなし ポチャッ ポチョッ イソップ』玉川大学出版部

イングリ：シャベール作／グリディ絵／アーサー・ビナード訳（2022）『ほくトリ』  
千倉書房

宮沢賢治・文／山村浩二・絵／アーサー・ビナード英訳（2013）『雨ニモマケズ  
Rain Won't』今人舎

宮沢賢治・文／山村浩二・絵／アーサー・ビナード英訳（2022）『やまなしMountain  
Stream』今人舎

### 【謝辞】

2022年9月3日の朗読会のために大型スクリーンに絵本を投影することを許可してく  
ださった千倉書房、玉川大学出版部、今人舎の各社に深くお礼申し上げます。お陰で  
『やまなし』の絵などは、「水族館で蟹や魚を見ているようだった」との参加者からの  
声が寄せられました。

2021年と2022年の両年にわたって、快くゲスト講師をつとめていただき、朗読会の  
雰囲気のをませてくださった福田百合子先生に心より感謝いたします。

また、アーサー・ビナード研究会と山口の朗読屋さんの朗読会などの告知を毎回丁  
寧に「こどもと本ジョイントネット21」のブログにアップしていただき、本稿のため  
に写真を提供してくださった山口智子氏にこの場を借りて、心から感謝いたします。